

1 研究の概要

(1) 研究主題

学習状況調査から見える中学校国語科「読むこと」の領域における課題の解決に向けた授業改善

(2) 研究主題設定の趣旨

本県では、学習指導要領に示されている目標や内容の定着状況等を把握し、指導の充実や学習状況の改善に役立てるため、全国学力・学習状況調査の実施に合わせて、4月に佐賀県小・中学校学習状況調査(以下、県調査)を行うとともに、12月にも県調査を行っています。これらの調査結果を受け、更なる指導の充実と改善が求められています。

平成26年度の佐賀県小・中学校学習状況調査Web報告書では、中学校国語科の課題として、「条件に合わせて自分の考えをまとめて書く」ことが課題として挙げられています。特に、「読むこと」の領域に関わって、書かれていることを読み取り、筆者の考えに対する自分の考えを書く設問(2年生、説明的な文章)においては、「おおむね達成」の基準を7.8ポイント下回っており、無解答率も28.2でした。また、表現の特徴を捉えて自分の考えを書く設問(1年生、文学的な文章)においては、正答率は「おおむね達成」の基準を上回っていたものの、無解答率は10.6という結果でした。

そこで、本研究では、「読むこと」の領域における「自分の考えの形成」に関する指導事項に焦点を当てた授業改善策を探ることにしました。そのために、県調査の誤答傾向を分析し、生徒のつまずきの段階を明らかにする必要があると考えました。そして、明らかになったつまずきの段階を課題として、その解決に向けて、ものの見方や考え方を広くしたり、知識や体験とを関連付けて自分の考えをもったりすることを通した指導法の工夫について検討していくことにしました。このようにして、学習状況調査から見える課題を解決したいと考え、本研究の目標を設定しました。

(3) 研究目標

「読むこと」の領域における課題の解決を図るため、文章を読んでもものの見方や考え方を広くしたり、知識や体験と関連付けて自分の考えをもったりすることを通した授業改善策を探る。

(4) 研究の方法と内容

- ① 県調査等の結果について、過去の報告書に示されている課題を基に、平成27年度〔4月調査〕、平成28年度〔4月調査〕の結果も加味して分析を行い、国語科の学力の現状を考察する。
- ② 「読むこと」の領域における課題解決のために、学習のプロセスに関する理論研究を行い、授業改善策を探る。
- ③ 実態把握で得られた課題の解決を図るため、検証授業を通して、よりよい国語科学習指導の在り方を探る。